

会 議 記 録

会議名称		令和7年度第1回杉並区健康づくり推進協議会
日時		令和7年8月27日（水）午後2時00分～午後3時30分
場所		杉並区役所 4階運動室
出席者	委員名	野崎会長、下光副会長、芝山委員、小川委員、前山委員、氏橋委員、松岡委員、中村委員、真砂委員、川名委員、石井委員、中川委員、中島委員、秋山委員、八木委員
	事務局	杉並保健所長、健康推進課長、健診担当課長、生活衛生課長、保健予防課長、保健サービス課長、健康推進課健康推進係長（栄養指導担当係長）、健康推進課主査（保健指導担当係長）、健康推進課歯科衛生担当係長、健康推進課健診係長、健康推進課連衡推進係主査、保健サービス課健康づくり調整担当係長、保健予防課保健指導担当係長
傍聴者数		2名
配付資料		資料1 杉並区健康医療計画（冊子） 資料2－1 総合的な健康アプリ選定結果について 資料2－2 企画提案書概要版 資料3 まるっとヘルスケア（チラシ） 資料4 杉並区健康づくり推進条例の規定に基づく目標及び指標 参考資料 令和7年度杉並区健康づくり推進協議会委員名簿 健康づくり実践ガイド集（V e r . 5 . 0）（冊子）
会議次第		1 開会 2 保健所長あいさつ 3 新委員紹介 4 報告・協議事項 （1）杉並区健康医療計画について （2）総合的な健康アプリ（なみチャレ）について （3）女性の健康に関するLINE相談窓口（まるっとヘルスケア）について （4）杉並区健康づくり推進条例の規定に基づく目標及び指標について 5 意見交換 6 閉会
健康推進課長		（自己紹介・挨拶）
杉並保健所長		（自己紹介・挨拶） 昨年度より、国や都の新たな健康増進計画である「健康日本21」、東京都健康推進プランの第三次が開始されたことを踏まえ、健康医療計画を改定しました。ヘルスリテラシーの向上・成人期の健康づくりの推進・女性の健康づくりの推進、この3つを重点取組としました。 誰一人取り残さない健康づくり、より実効性を持つ取組の推進に向け

	て行政だけではなくて、多様な主体による健康づくりの推進の重要性がますます大きくなっております。 区民の健康づくりためには行政だけでなく、委員の皆様方のお力が欠かせることができません。健康に関心を持つ余裕のない区民を含めて一人一人の区民がより健康になっていただけるように、区やそれぞれの団体等の皆様が、何ができるのか、あるいは何をしていたらよいのかなど、活発な意見交換をお願いいたしまして、私からのご挨拶に代えさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。
健康推進係長	(自己紹介・挨拶)。 本日は、20名中15名の委員の皆様にご出席いただいております。、1名がオンラインでの参加となります。定足数である過半数を満たしていますことをご報告させていただきます。 (資料確認・協議会の流れを説明) 次第に沿いまして進めさせていただきます。新委員のご紹介、その後に「報告・協議事項」を事務局から説明させていただきます。その内容につきまして皆様からご意見を伺いさせていただきます。 なお、「報告・協議事項」につきましては一括してこちらから説明をさせていただきますして、まとめて質疑応答の時間を設けさせていただければと思います。 「令和7年度杉並区健康づくり推進協議会委員名簿」をご覧ください。昨年9月に委員の委嘱をさせていただきましたが、委員の変更がございましたので、新委員をご紹介させていただければと思います。 今回オンラインでのご参加となります、八木美徳様でございます。一言ご挨拶いただけますでしょうか。
八木委員	杉並区医師会の会長の八木です。どうぞよろしくお願い申し上げます。
健康推進係長	こちらの新メンバーを含めた形で今年度も協議会を運営させていただきますので、よろしくお願い申し上げます。 それでは、今後の議事進行を野崎会長にお願いさせていただければと思います。
野崎会長	それでは、報告・協議事項に移ります。お手元の次第に沿って進めさせていただきます。 まず、報告・協議事項の(1)「杉並区健康医療計画について」、事務局からご報告をお願いします。
健康推進課長	「杉並区健康医療計画」のオレンジ色の冊子をご覧ください 昨年度は健康医療計画の改定に向けて、協議会でも意見を頂き、令和6年12月から令和7年1月までの35日間パブリックコメントも実施し、令和7年3月に公表したものが、このたび冊子になったものです。令和7年度から令和9年度までこの計画に基づき、健康事業を進めていきます。 大きく改定された箇所としましては、「ライフコースアプローチ」の考え方を入れたというのが今回の計画の大きな改定点でございます。47ページに第2章として新しく「ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり推進」として、子ども・成人期・高齢期・女性の健康づくりに視点をおいて計画をまとめたのが大きなポイントです。 また、大きく充実させた点としては、26ページからの第1章「いきいきと住み続けることができる健康づくり」。これは「誰一人取り残さず」ということや「自然と健康づくりが推進できる」というような、区

	民と進める健康づくりの推進に関して充実させて記載した点でございます。改定としては大きくこの点を、充実させて改定しました。
野崎会長	続いて資料２の説明をお願いします。
健康推進課長	資料２－１と２－２をご覧ください。 健康医療計画の中でも位置づけておりますが、総合的な健康アプリ事業として、健康づくりをＩＣＴの面からサポート及び推進する計画事業として、令和７年度は事業者の選定を行って１０月からこの健康アプリ事業を開始する予定です。 「令和７年杉並区健康アプリ活用事業運営業務受託者候補者の選定結果について」をご覧ください、公募型プロポーザル方式により受託候補者を公募し、１０事業者から応募がございまして、その中で内容や企画、経営状況とか様々な点から杉並区プロポーザル選定委員会で審査を実施しました。 選定事業者が決まりまして、日本電気株式会社（ＮＥＣ）が杉並区の健康アプリ事業を実施していただきます。 「選定経過等」につきましては、４月１７日に選定委員会を設置し、選定の公募基準、公募要項、評価基準を定めて、それを４月２２日に公表し、一次審査（書類審査）を実施し、１０事業者の書類審査を経て配点合計６割以上取得した事業者上位３事業者に対して、６月３０日にプレゼンテーション、ヒアリング審査を実施し、その発表内容や様々な点から評価をしました。 選定委員の構成をご覧ください。東京医科大学公衆衛生分野の主任教授の井上茂先生を会長にしておりますが、杉並区健康づくり推進協議会の公募委員の芝山委員と小川委員にも、区民目線と健康づくりの視点を持ってご意見いただいて選定委員に参加いただきました。 今後のスケジュールとしましては、９月に議会の報告を経て１０月から開始をします。なお、ホームページにも掲載しておりますが、企画提案書の概要版を使って、健康アプリを説明します。 資料２－２の概要版をご覧ください。「受託業務に対する考え方・提案内容の全体像」ということで、事業者が杉並区健康アプリをどう捉えてこの取組をしていくかでございます。区の健康医療計画もしっかり理解しており、『人生１００年時代』を自分らしく健やかに生きることができるまち」の実現に向けて、誰でも使いやすく、継続的な生活習慣改善を促進する健康アプリ事業を実施するポイントを記載しております。 す。中ほどのピンク色で書かれているところを抜粋して読み上げますと、「生涯にわたって健やかでいきいきと暮らすことができる健康長寿の地域社会の実現」を目指すということで、区と同じ目的でございます。また、「継続的な健康活動を促す仕組みやこれらを支えるためのイベント・コンテンツの提供」及び「誰でも使いやすいアプリ、独自のＡＩ等を活用したインセンティブ設計、データ分析等々も実現します」ができると、提案を頂いております。 また、「運動の習慣化・平均歩数」、これは歩数も計れるアプリになりますので、その増加にも寄与するということと、健診受診率の向上も測りたいということで、健診等を受診したというところでもアプリでポイントを付与する仕組みになっておりますので、きっかけづくりになっていただけると良いと考えております。 「事業参加者数の増加、利用者のアクティブ率の向上」ということで、区のような健康づくりに関する事業や区民の自主グループのような集

	まりに参加することで健康ポイントを付与する仕組みを事業提案で申し上げたので、それを実現する取組をしますと記載されています。 次の「アプリサービス利用イメージ・利用者からの問い合わせ対応や障害復旧対応」をご覧ください。 このアプリは、「誰でも分かりやすく使いやすいデザイン」ということで、左側にスマートフォンのアプリ画面が簡単に記載されています。 歩数標示や「サービスメニュー」の中のアイコンメニューを押すと展開できる仕様で、誰でも直感的に使いやすいアプリサービスになっています。スマートフォンを持ち歩いていると歩数を自動計算してくれることや、健康情報の入力機能もございます。歩数は自動で入力され、食事・体重・睡眠時間・体温・血圧・運動記録は自分で入力し、記録が蓄積され、グラフ化もされます。 ウォークラリー機能もあり、区で登録したウォーキングコースを選択し、そのチェックポイントを通過すると、そこで健康アプリのポイントが付与されるという機能もついています。グループ参加機能や、区の健康講座等の事業に参加した場合に、QRコードを読み込んで、それでポイントがたまる機能もございます。 また、区民健診・がん検診・職場の健診・人間ドックも含めて、健診を受けられた場合に、受診日・医療機関名称を入力し、ポイントがたまる仕組みも導入する予定です。 その他、このアプリ自体にゲーム機能や様々なイベントを通じて多くの方に参加していただけるような仕組みも持っている機能もありますので、多くの方に活用いただいて、健康づくりに取組きっかけになっていただければと思っています。 資料2-2に戻っていただきますけれども、問合せ体制、コールセンターやメール等でのお問合せにもしっかり対応をお願いしています。 また、「楽しさと健康リスクを感じられるバランスのよいサービス」と記載されています。様々な健康づくりの「ゲイン＝楽しさ：楽しみながら使えるコンテンツ」と記載されておりますが、「ゲイン」としてはこういった取組を通じてポイントがたまるというところで、様々な電子マネー等と交換できる仕組みになっています。 また、「ペイン」というところでは「健康リスク」等々に関して、それをサポートするような機能もついていますので、心配なところをアドバイスしてくれたり、この健康アプリの中で様々な動画や情報が取得できたり、区が作成した動画の配信などの取組もしていきます。 総合的な健康アプリ「なみチャレ」と次第には記載されておりますが、正式名称が「健幸アプリすぎなみチャレンジ」、通称「なみチャレ」と呼んでいきたいと思っています。 この健康アプリの「康」に関しては「幸」の字を使っていきます。健やかに、幸せにという字を入れて「健幸」でアプリ「すぎなみチャレンジ(なみチャレ)」ということで、これから普及啓発を図っていききたいと思います。
野崎会長	続いて資料3の説明をお願いします。
健康推進課長	資料3のチラシをご覧ください。女性のLINE相談「まるっとヘルスケア」のご説明をします。 健康医療計画の女性の健康支援の中で、女性の相談事業の充実を掲げ、実現しているものでございます。 女性のライフステージに応じた健康課題をサポートするために、看護

	師、臨床心理士、栄養士、薬剤師などの様々な専門家が、心身の健康に関して無料でオンライン相談できる窓口を、令和7年4月1日から開設しています。 これまで不妊治療に関するオンライン相談「妊活LINEサポート事業」を実施しており、令和7年度より、これに加えて、思春期、月経不順、月経痛、更年期障害、不眠や気分の落ち込みなどの精神的なこと、人間関係や家族とのコミュニケーションのこと、様々な女性の健康課題に関することが相談できるようになっています。 「妊活LINEサポート」は妊娠をしたい、不妊治療をしているといった方が相談対象ですが、その他に、予期せぬ妊娠や緊急避妊薬の処方、生理が来ない不安という相談もできるように、「すぎなみ妊娠SOS」というLINE相談も同時に4月1日から開設しております。 当事業は、相談の性質からチラシではなく、区公式HP等でご紹介しております。 相談実績ですが、令和6年度は「妊活LINEサポート事業」のみ行っておりましたので、不妊治療等の妊活の相談をしておりましたので、述べ相談数になりますが、令和6年度は66件です。令和7年4月から7月末時点の数字ですが、「まるっとヘルスケア」に相談されている方は170件です。 「妊活LINEサポート事業」の相談件数は、66件ですが、7月までに105件。「すぎなみ妊娠SOS」、望まない妊娠や緊急避妊のご相談というところでは2件の相談があり、合計277件です。 事業開始時に紹介やプレスリリースもしましたが、相談事業が活用されているということで、これからも様々な場を通じて、24時間365日相談できる強みを活かし、周知していきたいと思っています。
野崎会長	それでは、報告事項4の説明を続けてお願いします。
健康推進課長	資料4「杉並区健康づくり推進条例の規定に基づく目標及び指標」でございす。 昨年度、計画事業の中で目標・指標を協議し、杉並区健康医療計画の中でも目標・指標化したものです。最新のものを報告しますが、全部を説明すると長くなるので、抜粋してご説明します。 1ページ目、我々が一番大事にしております「健康事業の延伸」をご覧ください。最新は令和5年度の数字ですが、男性83.6歳、女性86.7歳ということで、目標値に向かって健康で長生き、長寿でいただくという目標値に向けて様々な取組をしていきたいと思ひます。 6ページ目。これは令和6年度の数字が向上したものを紹介させていただきます。 「元気な高齢者の社会参加を増やす」。こちら杉並区区民意向調査として、毎年調査しているものになりますが、令和6年度は「地域活動・ボランティア活動・働いている高齢者の割合」ということで55.9%、時代背景を見ますと本当に元気で、お仕事をされている高齢者の方も増えているのかなと思ひますが、着実に社会参加をされている方が増えていることが数字でも分かる内容になっています。 9ページ、「歯と口腔の健康を維持する」としまして、「40歳重度歯周病疾患有病率」というところでは、目標値に向かって改善を目指しているところでございす。 10ページ、これも高齢期の健康づくりですが、こちら改善している数字が幾つかございす。「65歳以上の高齢者でいきがいを感じて

	いる人の割合」も年々増えており、令和５年度、最新値は７６．６％となっています。 １１ページ、「８０歳で２０本以上の歯を持つ者の割合」も８４．７％として、こちらも増えております。 １３ページになりますが、こちらは「がんによる死亡を減らす」ということで、大きく良くなっております。 原因は調査中にはなりますが、最新値の令和５年度ですけれども、男性６１．１歳、女性５１．１歳ということで、がんの７５歳未満年齢調整死亡率になります。目標値は男性の場合は達成したということになっております。様々な要因が考えられますけれども、がん検診の受診率の向上、医療の発達、検診の精度の充実と様々な要因はあるかと思いますが、改善が見られている数字で、こういったことを基に目標値もまた考えていかなければいけないかなというところはございます。
野崎会長	続けてご説明ありがとうございます。 それでは、皆様方のご質問やご意見を伺いたいと思いますが、時間の都合で議題の説明を１から４まで続けてやっていただきましたけれども、内容的にそれほどかけ離れたものではございませんので、ご質問をお願いします。
中川委員	町会連合会の中川でございます。今、国もそうですが、いろいろなところでＤＸ化が進められています。町会もそれにならってＤＸ化として、回覧板を無くしていく傾向にありますけれども、現実的にはまだできない老人がたくさんいるのです。アプリについては、例えば携帯を持たない人やガラケーしか持っていない人とか、そういう人たちにはどういった告知というか、取り残してしまうのですか。それとも、そういう人たちに対しては紙でやるとか対策はありますでしょうか。 それと、今、女性の貧困という中で、例えば子ども食堂でも女性の生理用品をお配りしているところがあるのです。ただ、自費購入や、区から子ども食堂に対する助成金が出ておりますが、資金用途では駄目だという話になりました。 子ども食堂もそうですし、区の関係機関にもうちょっと置いてほしいなど。小学校・中学校は希望があれば渡していますし、実際には震災避難所には１，０８０個か置いています。ただ保存の中で、果たして１０年たったものが使えるのかどうかは分からないものもあります。区としての健康というものを、もっと現実にあるものをもう少し考えていただければと思います。例えば２，０００万円の参加型予算で、健康づくりのためにあったと思うのですけれども、そういう中で前向きに考えていただければと思うのですけれども、いかがでしょうか。
健康推進課長	ありがとうございます。ＤＸ化については健康アプリを開始するときにもスマートフォンを持たない方等にはどうするのかとか、そういったご意見は頂いております。 まず１点は、高齢者の長寿応援ポイントという高齢者の社会参加や健康づくりを支援する、健康づくりだけではないですけれども、そういったポイント事業のシールをお配りするような事業がございます。それは引き続きやっているところで、対策をしております。 健康アプリをどうやって使っていきたいかとか、そういった対面の説明会はさせていただき、丁寧にフォローしていきたいと思っています。 ２点目の女性の貧困、生理用品等に関してというところですけど

	も、生理用品の配付に関しては今内部の検討会が開かれておりまして、我々健康部門も呼ばれてその検討会に参加しています。生理用品を広める場所や、子どもたちにどうやってお渡ししていくかとか、そういうものがまさしくテーマになっているので、中川委員からご意見を頂いたところも、検討会がありますので、我々からも周知していきたいと思っています。 「くらしのサポートステーション」からお聞きすると、トイレから生理用品に関するカードを持っていくと生理用品がもらえるという対策も行っているということですが、様々な集まりの中で生理用品を配れないかということに関しても検討会の中でこんな意見があったことを伝えていきたいと思っています。
野崎会長	ほかにご質問、ご意見等ございましたらお願いします。 特にないようでしたら、意見交換会に移りたいと思います。意見交換会ということで、この1年間所属する会などで運動や栄養に関する活動だけでなく、交流や地域活性化など幅広い意味での健康づくり活動を行ったことについて、ご指名いたしますので、簡単にご紹介をお願いします。 「いきいきクラブ」の石井委員、お願いします。
石井委員	私どもは「杉並区いきいきクラブ連合会」という組織をつくっておりまして、区を10ブロックに分けて、会員クラブとして57クラブがあるのですけれども、そこで今4,000人弱の会員がいて、いろいろ活動しているところです。スポーツ部・女性部・厚生部等のいろいろな部門に分かれて、老人の活性化及び会員増強のために活動しているところです。 平均年齢がすごく上がってまして、80過ぎが会員クラブの平均年齢で、90歳過ぎの100歳近い方も活動しており、セシオン杉並で福祉大会の発表会を楽しみに参加しています。 スポーツ部門では、フリーブローの大会・輪投げ大会・ユニカール・グランドゴルフの大会をしています。群馬県東吾妻の老人会とも毎年交流会などをしていて、活発なスポーツ活動をしています。 女性部におきましては、レクダンスなどを取り入れまして、いろいろ新しい踊りに取り組んでおり、毎年東京都の大会もあります。味の素スタジアムの隣に体育館があるので、そこで東京都全体の交流事業もしています。 厚生部としても手芸・カラオケ大会・麻雀交流会など、皆さんのご希望のある事業に取り組んでおります。 文化部も、講演会や校外学習でいろいろな地域を巡ったり、俳句大会とかそういうような活動をして、1年間、区からも助成金を頂きながら皆さん和気あいあいと楽しく活動しているのが現状です。
野崎会長	ありがとうございました。 では、次に町会連合会の中川委員、お願いします。
中川委員	天沼地区町連の中川でございます。私どもの町連は駅の北側の天沼地区8町会で構成しています。町会は健康だけでなく、防火・防災・防犯が中心になってくる場所ですが、天沼小学校の朝の居場所づくりということで、7町会が交代で朝7時40分から8時15分まで校庭の児童を見守ることも行っております。 今、日本で1万近くの子どもの食堂があるのです。その中で町会連合会としてやっているところは非常に少ないのですけれども、私どもが「キ

	ッチンあまぬま」という、ウェルファーム杉並で毎月第3金曜日にやっております。私たちは子ども食堂だけではなく、孤食の老人を守りながら、三世代で話をしながら楽しく学び、話をすることによって老人たちも生きがいにもなるので、「誰一人取り残さない」という理念で町会活動しております。 今年初めて実施した事業で、7月24日から31日までに「キッチンあまぬま」の子どものラジオ体操を実施しましたが、子どもの参加は3人ぐらいしかいませんでした。私たちの頃には、必ず小学校でラジオ体操をやってスタンプをもらうなどありましたが、今は全くない状態で、物で釣ったわけではないのですが、パンと飲み物を用意したら毎日120名ぐらいの児童が来ましたが、多くの児童と親が熱心に来ていただきましたので、大変ですが、来年以降も続けたいと思っています。 来月27日に区の絆の助成金を頂きまして、「あまぬま みんなのフェスタ」ということで旧若杉小を借り、いろいろな食べ物の模擬店、子ども用のゲーム、パトカーとの写真撮影、体育館では防災倉庫の見学とごみの減量クイズ、町会を知ってもらうためのビデオの放映、それから、震災救援所のトイレの組立て。子ども用の防災クイズだとか入れながら、町会の活動を知ってもらうことを初めて行います。
野崎会長	ありがとうございました。 では、次に歯科医師会の真砂委員、お願いします。
真砂委員	杉並区歯科医師会の真砂です。よろしくお願いいたします。 我々歯科医師会では年に一度「よい歯健口フェスティバル」を実施しており、「人生100年時代」と言われていますけれども、「8020運動」という、80歳で20本以上の歯を残そうという運動があります。 先生方が患者さんを推薦して表彰してもらいます。これは毎年実施していますが、80歳でも20本以上の歯がある方はかなり多いです。そういうふうに歯を持っていて健康な、お口の状態の人はやはり体のほうも健康です。食事とか食物を摂取するのは自分の口からですので、そういう意味でも継続して実施しております。 また、区では2年に一度、区民健康講座も行われております。著名人をお呼びして自分の健康に関してのいろいろなお話をしていただくこともやっています。 そのほかには、毎年虫歯予防デーにかけて阿佐ヶ谷駅の南口で無料の歯科相談も年に一度やっています。無料歯科相談というのは歯科医師会館でも実施しており、他職種の方々といろいろな口腔ケア、地域のケア会議を開催しまして、他職種の方々とかなり活発な意見交換などもやっております。
野崎会長	ありがとうございました。 お三方からご紹介をいただきましたけれども、今お話しいただいたことで質問等ありましたら、お願いいたします。
健康推進課長	感想に近い発言となりますが、今回意見交換会ということで、改めて「地域の中でこんなに様々な活動をしている方々が来ていただいて、意見をいただけている」と思ったことと、私自身も区で働いていながら、活動の細かなところ、「いきいきクラブ」もクラブごとに独立しており、町会も様々な活動をしていることは知っているのですが、こんなに活動をしているのだということを知りました。改めて周知が難しいというのを感じるとともに、「こんな良い取組だからもっと知っていただけるといいな」と思って聞いていたところです。

	うなずいてくださっているのです、何かご意見ございますか。
小川委員	今伺ったすばらしい活動、それと、こちらの「まととヘルスケア」。私は情報弱者なのかと思ってしまうほど、広報や新聞に入っているときは拝見していますし、いろいろな貼り紙も見ているつもりなのですが、正直お恥ずかしいのですけれども、何一つ知らなかったというのが実態です。「あれ、これ、広報に出ていたかな」とか思って、早速このQRコードでダウンロードしたのですが、その後に「このアプリはどこにあるかな」と思ったら、アプリだったりLINEだったり、ポスターだったり、いろいろと周知の仕方がばらばらなので、よくチェックするのはアプリなのですが、アプリもスマホの中に山ほど増えてしまうので、本当に情報弱者のつもりはないけれども、自然に情報弱者になってしまっていたというのが実感です。
野崎会長	ありがとうございます。ほかに、ございますか。
中村委員	皆さん、こんにちは。杉並区薬剤師会の中村です。 宣伝にもなってしまいますが、我々も毎年歯科医師会の先生方と同じで、今年は10月19日の日曜日に1時から5時まで。会場はセシオン杉並で、来場されたお客様に日頃ゆっくりお薬の相談ができない方に薬についての質問を受けるという形で、薬局でも患者さんが多いと話ができないという方に、この機会にゆっくりご相談いただくということで、薬の相談だけで大体30から40名ぐらい事業を実施しています。 また、ヨガ教室、介護事業としての介護相談、おむつの相談。特に高齢の方、特に女性の方が一番測りたいというのが骨量計です。血圧計は結構お持ちの方はいますが、骨量計はなかなかないので、骨量を測り、低いと出た方には早めに、整形外科を受診していただくという形でお願ひしています。 あとは、将来の薬剤師さんを発掘する機会にということで、幼稚園に行くか行かないかぐらいの方から小学校6年生ぐらいまでの、各サイズの白衣を用意して、その場で着ていただいて、薬は非常に危険なものもありますからマーブルチョコレート錠剤代わりにして、一包化といって1回に飲む量をパックして、それをお土産としてお持ち帰りいただく。そんな形を毎年やっております。
野崎会長	ありがとうございます。 八木先生、ご発言ございますか。お願いいたします。
八木委員	医師会では9月21日にセシオン杉並で「区民健康フォーラム2025」を開催します。いろいろな楽しい講演や体験イベントとか、お子様からお年寄りまで楽しめる企画を盛りだくさん用意しておりますので、ぜひ皆さん、ご参加してください。
野崎会長	ありがとうございます。 それでは、下光先生、その健康・体力づくり事業財団の理事長をされておられますので、全体を通してご発言を。
下光副会長	健康・体力づくり事業財団の下光でございます。感想ということで簡単に述べさせていただきます。 今日の協議会はこれまでの協議会とちょっと異なって、これまでは事務方のほうからいろいろ施策の説明があって、それに対する質疑応答という形でやられていたと思いますけれども、今日は嗜好が変わって、委員が所属する、「いきいきクラブ」とか町会連合会、歯科医師会、医師会、薬剤師会の方々から我々も初めて聞くような、こんな活動をしているの

	だということが聞けて、私どもも大変うれしく思いました。 この健康づくりは「誰一人取り残さない」ということで、地域全体で健康づくりが進んでいくという流れになってきているわけです。実際、地域でどう進めていったらいいのかというときに、その地域に住んでいる人たちが主体的に健康づくりに関わっていくという流れができないと、上から「これをやってくれ」ということだけでは進まない。これまではそういうことでなかなか成果が上げられていなかったのですけれども、そういう意味ではいい流れができ始めたかなと感じております。本来の協議会の在り方というものがすばらしく変わっていくのかなという感想を持たせていただきました。 それから1点、この施策の目標と指標についてアドバイスというのでしょうか、先ほどがんの死亡、(資料4)13ページです。国の「健康日本21」の目標が第二次まではがんの死亡率の減少があったわけですが、がんについては、全国のいろいろな病院でがん登録が進んできたということで、がんの死亡率も当然目標になるのですけれども、発症率、がんにならないようにする、がんの発症を予防するというのも目標になるようになってきております。ただ、循環器疾患、心臓病などはまだそういう登録が進んでいないので、死亡率はまだ変わっていないです。 実はその死亡率で見ると発症率で見るとはちょっと違いが出てきます。要するに、タバコをやめて運動してダイエットをしてというような生活習慣を改善することによってがんの予防ができるということで発症率がどうなっていくのかということを見ていくことはできるのですけれども、死亡率が最終目標になりますと、その病気が発症してから死亡するまでの経過も入ってくるのです。 現在はがんについては免疫チェックポイント阻害剤とか、いろいろな抗がん剤とか新しい薬が出てきて、医療そのものの進歩がものすごく進んでいるのです。ですから、十数年前ですと肺がんになってしまったというと、「これはもう厳しい」という感想を持つ時代があったわけですが、今や肺がんでもいろいろな薬が効いて、また職場復帰ができると、時代になってきたということでありまして、医療の進歩というのがそこに介在してしまいますので、健康づくり、生活習慣病の発症予防にプラスして医療の進歩がその目標に影響を与えるということで、これも死亡だけではなく健康寿命にも影響を与えてしまう。 そういうところで、がんの死亡率がすごく下がっているという結果が出てきて、恐らくそういう治療の進歩がここに入っているのだと思います。 ということで、区でもしデータが取れるようであれば将来は発症率で見えていったほうがいいだろうということが必要なのかなと思います。 医療の進歩もいいのですけれども、例えば免疫チェックポイント阻害剤は何百万円という医療費がかかるので、こういうものだけで医療費が莫大に上がってしまいますので、なるべく医療費を抑えるという意味では、病気の発症を予防する、生活習慣の改善を通して発症を予防するという流れを私たちはつくっていかねばいけませんので、その辺の視点を持って私たちも健康づくり協議会も頑張っていかなければいけないと思います。よろしくお願ひしたいと思います。
野崎会長	ありがとうございました。 ほかに全体を通してのご質問なりご意見がありましたら、ご発言をお

	願いいたします。
芝山委員	まず、全体を通してということで、先ほど杉並区健康アプリ活用事業のご説明が健康推進課長からありました。例えば区では「杉並さわやかウォーキング」という団体もございまして、そこには集合場所と解散場所が決まっているという形だと、チェックポイントをそういう10公園も含めて検討するという観点で進めていくと利用者も増えていくのではないかと感じました。 それから、先ほど各団体の紹介がありましたけれども、私も恥ずかしながら、今日皆さんのお話を聞いていて、そういう活動しているのかと初めて知るような状態でございます。例えば今日そういう団体の紹介をするのであれば、各団体の概要ぐらいのものを用意して席上配付しておけば委員の方の関心も高まり、また、各委員はいろいろな会に所属しておられるので、そういう横の広がりも出てくるのかなということで、せっかく健康づくり推進協議会をやっているのであれば、そういう取組もしていくと、さらに区民の健康寿命も延びていくのかなと感じました。 (資料4) 13ページのところに、「がんの75歳未満の年齢調整死亡率(人口対10万人)」というのが、「がんによる死亡を減らす」目標の中の1項目めであるのですけれども、これは私ども素人には初めて聞く「年齢調整死亡率」というのが何なのか教えていただければと思います。
野崎会長	調整死亡率のご説明を簡単をお願いします。
健診担当課長	簡単ではございますが、「年齢調整死亡率」についてご説明させていただきます。 一定の計算式の下、基本的には地域の年齢構成の違いを全部ならした形での計算式で、年齢による死亡率のリスクというのを少し削減した形でがんによる75歳未満の方が、純粹にと言っては変なのですが、がん で亡くなる方の死亡率を算出するという形になっております。こちらは死亡率ですので、ゼロにはなかなかありませんが、低ければ低いほど良いという形の数字となります。このような説明でご理解いただけましたでしょうか。よろしく願いいたします。
野崎会長	どうもありがとうございました。
真砂委員	追加でPRになるのですけれども、先ほどから皆さん、薬剤師会の先生も言われていましたけれども、今度9月28日にセッション杉並で歯の無料相談を行います。 もう1つは11月16日に当センターで「よい歯健口フェスティバル」が行われます。
野崎会長	ありがとうございます。ほかにございますか。」
秋山委員	別件ですけれども、今年度の区民参加型予算、これがまさに「健康・ウェルネス」ということで、健康づくりに関する協議会に最も近いテーマでございまして、それが6月末に提案の申込みがあったと思います。その件数がどのぐらいあったのか。そして、今後のざっとした予定をお知らせいただける範囲で結構でございますので、願いいたします。
健康推進課長	ありがとうございます。「健康・ウェルネス」というのがテーマで区民の方に様々な事業提案を募集して、それを実際にかなえていこうという企画をやったところでございます。応募の件数は143件ございました。昨年度は防災がテーマで、80数件だったことから、倍近く提案が多かったところがございます。 今度150件の中から区の内部の審査を経て10提案ほど、昨年も1

	0件の提案を区民投票してもらうために広報をしたのですけれども、今回も10件ほどに絞って、10月1日号の広報で周知し、投票していただいて上位3位に入った事業に区が実現をしていくという取組になっていますので、10月1日号の広報はぜひ見ていただきたいと思います。ホームページ等でも宣伝しますし、先ほどの健康アプリ事業も10月1日号の広報と一緒に周知をします。 10月1日号の広報は、今のところ聞いているのは全戸配付といって新聞の折込みに入ることが多いです。なので、新聞を取っていらっしゃる方は目にする機会が多いですが、10月1日号に限っては、こういった「健康・ウェルネス」の区民参加型予算の投票もあるということで、全員のお宅に、戸別に広報が入りますので、ぜひ見ていただいて、健康アプリも宣伝しておりますので、一緒に見ていただけたらと思います。
野崎会長	ありがとうございました。 それでは、ほかの皆様方もご質問やご意見があれば保健所の事務局にまたご連絡いただければと思います。以上で本日の議事は全て終了します。最後に事務局からお知らせをお願いいたします。
健康推進課長	本日は、本当にお暑い中、お忙しい中をお集まりいただきまして、どうもありがとうございました。 目に残るものがあつたほうが良いというご提案については次回、皆さんに負担がない形で取れる方法を考えて、こういった情報交換会を工夫して実施していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。 年に2回、健康づくり推進連絡協議会を開催しております。次回は12月または1月頃を考えております。時期が来ましたら、日程調整等を含めてご案内させていただきますので、どうぞお願いいたします。 まだまだ暑い日が続いておりますので、熱中症対策等、皆さん健康には留意していただいて、次回にまた元気にお会いしたいと思います。 本日はどうもありがとうございました。